

72年前の ex J4EA の交友から先達の活躍をしのぶ [第2回]

オールドタイマーが遺した一冊のアルバム

by Editor Shinzaburo Kawai, JA1FUY

いつのころか「モービルハム」編集部へ送られてきた小包の存在をしばらくの間、思い出すこともなく忘れていましたが、書庫の整理に取り掛かっているときに当時のままの小包を発見しました。

差出人は植田常夫さん、コールサインは JA5NG、香川県大川郡白鳥町とあり、包みを開くと一通の手紙と黒い表紙のアルバムが出てきました。

このアルバムは 植田さんの親類の ex **J4EA**、**岡本良雄**（香川県引田町）さんが遺された一冊で、昭和 8 年（1933 年）J4EA を開局のシャックが冒頭に飾られており、当時交流していたオールドタイマーの活躍がモノクロ写真に鮮やかに焼き付けられていました。



アルバムには昭和になって再び開局し活躍された有名な OM たちの写真を見ることができて興味深いものがあります。

すでに故人になられた方も少なくありませんが、そうした方々を織り交ぜてアマチュア無線の草創期に活躍されたオールドタイマーの様子を遺された写真から追ってみたいと思います。

▼植田さんの手紙から抜粋

私の親類が大昔、昭和 10 年頃、J4CW、J4EA で出ていました。その頃の各局の写真をも 108 枚いただいているのですが、私には見飽きて必要ありませんので、もし皆さんに見ていただけるようでしたら寄贈いたします。de JA5NG

写真のコールは **J4EA**、J4CB、J3DZ、J3CW、J3EK、J3EH、J2KJ、J7CG、J1EG、**J2HJ**、J2CD、J2HE、J2EA、J6CO、J4CT、J3EF、J3DO、J3DT、W6GPB、DE1178、**J4CG**、**J4CL**、**J3CX**、J4CM、J4EM、J3DP、J3EN、J1DO、**J2GX**、J6CP、**J2GW**、J2KQ、WA6GAL、**J3DE**、W6FZY、K6CGK、J2KJ、**J1FF**、**J2HZ**、J4CI、J2CC、J4CJ、J3FI、J2KP、MX2B、鳥取米子工業学校施設、MX2A、J4CO、J4CP、**J2IX**、J2LW、**K6CQV**、XU5KT、K6AKP、EA3DY、K6CRU、J7CG、J5CM、VK3ERS、その他。

*色つきコールサインはご紹介済み

▼大島正臣氏 (J1FF、J2HZ) のシャック



国防無線隊情報班、停電用受信機に就いて (JARL NEWS 第 66 号 昭和 12 年 9~10 月号より)
1937 年
(大島正臣氏の報告)

・・・小生の関係せる情報班は其の性質上地域は東京市通信局管下 (東京局として 5 局) 及び東京地方、名古屋、仙台通信管下 (地方局として 6 局) の参加局に於て、東京局を中心として地方局間と情報通信に従事せる如く地域的に非常に廣範囲であり、又仕事としては気球班、探知班に比較し地味で一見パツとしない任務であったが、情報班は無線隊中最も重要にして生命とも謂ふ可き情報、天気通信、命令及び諸報の如き極めて重責に任じ、其の執務時間は總て午後 6 時より午前 6 時に至る間であった。

又使用周波数帯 (7.1Mc) に於ける執務時間中の感度試験の爲め、東京局と地方局間に於いては 8 月 21 日より 9 月 12 日に至る書く土曜或は日曜を利用し試験通信を行なひ、スキップ其の他の通信状態を調査し、以て演習に於ける任務の萬全を期する為に努めた。(後略)

昭和 10 年 (1935 年) はどんな時代だったか？

■十米短波で見事 世界六大洲交信 全世界アマチュア無電家の念願
(28MHzWAC 成功を伝える新聞の見出しから)

昭和 10 年 (1935 年) 10 月 20 日、**斯波邦夫氏** (ex J1EG、**J2HJ**)が W3FAR、ZS1H について世界

第3番目の28MHz WACを完成した。(アマチュア無線のあゆみ p.133) タッチの差で3番目とはなったが戦前のアマチュア無線界で28MHz WACは今では想像もできない困難さがあった。



斯波邦夫氏 (ex J1EG、J2HJ)とそのシャック

▼「無線と実験」昭和15年(1940年)12月号に掲載されたもので、筆者は当時賛助員であった梶井謙一氏 (ex 3AZ、JA1FG)である。

「過去15年間に於ける我が国アマチュア無線の事情 茨の道」

=前略= WAC、即ち六大洲との交信を完成したものが得る、このクラブ員たるの資格は世界アマチュアの憧れであり、誇りである。従って、この条件を具備するアマチュアは、殆ど漏れなくWAC会員になっている。いはばWACの会員数の大小は、大凡その国のアマチュア・ラジオの大勢を示すといっても差支えない。WACが始めて出来たのは1926年の4月であった。そしてわが国のアマチュアがこの会員になったのは、1930年(昭和5年)1月2日附でなつたのを最初とする(J2GR・笠原功一氏)。これは世界中で第339番目であった。この翌年、昭和6年(1931年)になって、わが国は一挙8人のWACを増加し、以後年々順調に増加しつつある。

ところで、昭和10年(1935年)は28メガ・サイクル(10メートル・バンド)の世界的競争の年であった。我が国からはJ2HJ、J2IS(三田義治氏 ex J1GL、JH1XEO)、J3FJ(湯浅楠敬氏)等のチャンピオンを送り出した。そして28メガ・サイクル・バンドに於けるWACは、10月中旬に北米、欧、南阿及び我が国のアマチュアによって、殆ど同時に完成された。このWACくらい華々しいWAC

は少ないと思ふ。

そして、我が国の J2HJ は“日本も仲々やるわい”と全世界のラヂオ・アマチュアに思はせたのであった。私は、このチャンピオン J2HJ が、この翌年の昭和 11 年 4 月、享年僅か 27 歳にしてキーと別離された斯波邦夫君であることを、悲しくも付記しなければならない。=後略=
(以上、アマチュア無線のあゆみ JARL p.165~p.168 から抜粋)

■アルバムを遺した岡本良雄さん (J4EA) とそのシャック



この写真は J4CL、西山 始さん（当時、丸亀市葭町）が撮影したもの

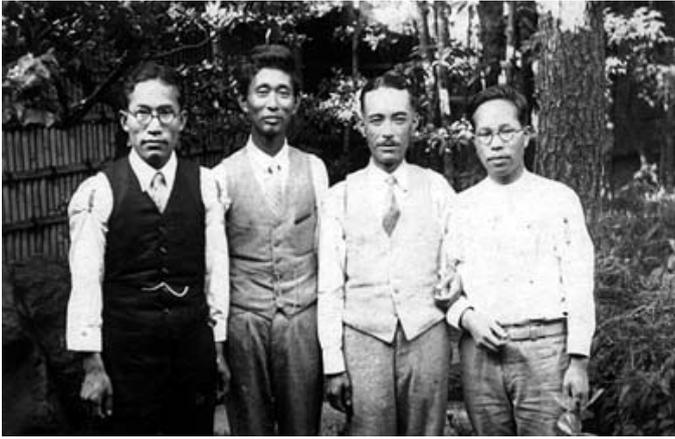


J4EA 岡本良雄さん

■J4CL 西山 始さん

J4EA 岡本さんのシャックを撮影した J4CL 西山始さん（左端）が友人たちと一緒に収まっている。

当時の交友を示すミーティングの写真だろうか。



左から J4CL、J4CG、J3CX、J4EA

左から

- J4CL** 西山 始氏 (丸亀市葭町)、
- J4CG** 近木尚氏 (丸亀市地方)、
- J3CX** 河野正一氏 (京都市下京区)
- J4EA** 岡本良雄氏 (香川県引田町)

[参考文献]

「アマチュア無線のあゆみ (日本アマチュア無線連盟 50 年史)」

「アマチュア無線のあゆみⅢ」JARL

「ハム半世紀」香山晃著 電波実験社

de JA1FUY